

# JICA 英国事務所

## 英国援助情報ヘッドライン

---

17 June 2005

Vol. 2

今回のメインピック:

- ・アクションエイドによる「幻の援助」報告書 米仏の援助の90%は幻?! (p.4)
- ・学校向けアフリカ委員会報告書が完成(p.3)



From: 英国事務所長

< 演説等 >

・ローマでのアフリカ委員会のブレア首相開会演説と Q&A (5月27日)

アフリカで起こっていることがもし他の世界で起こったらおそらく大騒ぎになるだろう。アフリカだから騒がないというのは残念である。アフリカ委員会報告書は債務、援助、貿易に加えて統治、汚職、紛争解決を扱っている。つまりこれはアフリカの指導者に受け入れられ、おそらく G8 にも受け入れられる報告書である。国連の MDG は貧困や教育をターゲットにしており、我々はそのコミットメントを行動に移さなくてはならない。世界で起こっている問題の中でも最大なのがアフリカである。Q: G8 サミットは期待の割に成果が少ないが、債務などで合意が得られるのか。A: 成果が得られるか約束はできないが努力する。Q: 債務は国によって違うが、共通認識が得られるのか。A: 債務削減については合意が得られると思う。これまでの報告書と違ってアフリカ委員会ではアフリカの指導者のコミットメントを得ることができている。

・ベン開発大臣のアフリカデーの AU 集会での演説 (5月25日)

昨日ブリュッセルにて 2010 年に EU の援助が 2004 年値の倍になり、その半分がアフリカ向けということが決定された。それにより、アフリカ委員会が提言している増額の 3 分の 2 が確保できることとなった。AU の中でも特に NEPAD の 23 カ国が良い統治と経済開発に取り組んでいることは喜ばしい。国際社会にはより多くの良質な援助、債務削減、公正な貿易をお願いしたい。そして、アフリカはそれを活用しなくてはならない。AU サミットを G8 サミット直前に開催するのはいいことであり、G8 へ圧力をかけてほしい。ガバナンスの向上、汚職の追放、援助受け入れ能力の向上、地域貿易バリアの減少、新たな援助や債務削減を補完するためにアフリカ自らの投資を表明してほしい。

・ピアソン貿易次官の英連邦セミナーでの演説 (5月24日)

ドーハ開発アジェンダは年間 2500 億から 6000 億ドルの効果をもたらし、世銀の推定では貧困層を 1.44 億人減少させることができる。貿易自由化は特効薬ではなく、貿易の改革は開発や貧困削減に併せて実行しなければならない。貧困国が発展すれば先進国の市場が広がる。英国はドーハラウンドが 2006 年か 2007 年には完了するよう欧州各国、EC、英連邦諸国と共に香港会合のためのたたき台を作っていく。これには農業、非農業、サービス、貿易の円滑化が含まれる。英連邦は人口 18 億人を抱え、WTO 加盟国の 3 分の 1 にあたる。11 月に予定されている英連邦の首脳会議は香港会合の 3 週間前であり、コミットメントを示す良い機会である。貿易の円滑化により年間 3000 億ユーロの便益が見込まれる。英国は EC と共に途上国の実情に即した協定を作り、実施に必要な技術協力を行う用意がある。

・アレキサンダー外務政務次官による女王の議会演説を受けた下院発言 (5月18日)

英国政府の外交政策は (1) EU のリーディングパワーとして EU の改革を行うこと、(2) テロ、(核や兵器の) 拡散、紛争をなくすることで英国の安全を保障すること、(3) 世界

の安全と平等に尽くすこと。(2)に関しては中東、ダルフル、ジンバブエ、カシミールでの問題解決を図る。(3)に関しては武器の取引に関する国際条約を支持し、アフガニスタンとイラクの民主化を支援する。さらに、グレンイーグルスサミットを通じてアフリカに焦点を当て、国連サミットを通じて国連の効率化を目指す。

・ベン開発大臣による貿易の道徳イニシアティブ会議の演説(5月12日)

多くの英国民は購買品が人々や環境を搾取するものではないことを望んでいる。フェアトレードで扱われた商品は2004年で50%の増加になっている。途上国への投資や貿易では成長と貧困削減に寄与するようDfIDも企業に働きかけている。道徳を守りつつ今日の競争社会で利益を追求するのは非常に難しいが、企業は購買者の意識を企業の道徳へ向ける義務がある。

・ハウウェル外務次官のウィルトンパーク会議でのアフガニスタンに関する演説

アフガニスタンは大統領選挙、新たな軍・警察組織の形成、兵士の除隊、教育、保健医療など3年間で大きく前進した。英国の対アフガニスタンの支援額は3番目であり、2002年から5年間で5億ポンドを拠出する。治安に関してはDDRに加えて国民に法を尊重してもらいたい。さらに、保健、教育、司法も国家の安定に欠かせない。麻薬取引に関して英国は長期的な防止政策作りに寄与している。地域協力に関しては、アフガニスタンは中央アジア、南アジア、ペルシャ湾の接点になるポテンシャルがあり、将来の経済便益は非常に大きい。

<プレスリリース>

・学校向けのアフリカ委員会報告書が完成。英国内全ての中学校へ配布される。ダウンロードサイトは [www.learningafrica.org.uk](http://www.learningafrica.org.uk) (5月25日)

・EU25カ国の開発担当大臣がブリュッセルにて0.7%の援助目標について合意。先進15カ国はODAを2010年までに最低でも国家予算の0.51%とする。新たに加盟した10カ国は0.17%を目標とする。それによってEU全体では国家予算の0.56%がODAとなり、2006年に比べて年間200億ユーロの増額となる。さらに先進15カ国は2015年までには国連の目標である0.7%、その他の10カ国は0.33%を目指す。それによりEUの開発予算は今後10年間で倍増になり、その半分はアフリカ向けとされている。ベン開発大臣はこの合意を歓迎し、他のドナーもEUを見習ってほしいと述べた。(5月24日)

<ニュース>

・DfIDがEUとの2006年までの連携について方針を発表。DfIDのパブリックサービス契約にはECの援助が貧困削減に効果的に寄与し、低所得国向けの援助額を増加させるように努力することが含まれている。具体的には欧州開発基金などの成績が良い資金を支持し、EC予算改革を進めて効率性と貧困削減を重視させること、開発途上国に有益になるように

EC 政策を推進し、他の政策も開発政策に合致していくように働きかける。特に EC の政策、組織、予算について積極的に関与し、アフリカへの焦点が当てられるよう本部及び加盟各国に働きかける。(5月31日)

・ベン開発大臣はアクションエイドが公表した援助の有効性に関する報告書について、英国援助の3分の1が幻というのはナンセンスであると反論した。アクションエイドが債務救済や専門家のアドバイスを「真の援助」ではないとしている点についてばかっていると指摘しているものの、質の向上の必要性については認め、英国の援助の90%は最貧国向けであり、他のドナーとも重複などがないように配慮していると述べた。アクションエイドの報告書では「真の援助」とは貧困国の基本的な権利に働きかけるものであり、2003年値では270億ドル(注:ドナーの実績値は690億ドルで、そこからトランスアクションコスト、事務経費、技術協力、タイド援助、債務救済、難民支援、貧困削減目的以外のものを差し引いた)つまりドナー国全体のGNIの0.1%にすぎず、アメリカとフランスは援助の約90%が幻である。(注:日本に対しては21ページ目にて我が国の対ベトナム援助は日本の輸出とFDIを支えるもので、86%がインフラ支援であり、社会開発には6%しか使われていないと指摘しています。24ページ目にて対エチオピア技術援助では日本とイタリアがUNDPのプールシステムに参加していないと指摘しています。28ページ目では日本の対ベトナム援助の96%が日本企業にて落札されていると述べています。日本は幻の比率はそこそこ良いが(48%)、絶対額が低いと指摘しています。)(5月27日)

[http://www.actionaid.org.uk/wps/content/documents/real\\_aid.pdf](http://www.actionaid.org.uk/wps/content/documents/real_aid.pdf)

・アフリカデーにてBBCが24時間ラジオにてアフリカを扱った。例えば、ソープオペラとしてルワンダで放映されているものを紹介した。(5月25日)

・ブレア首相はトマス議員を開発担当政務次官に再度任命した。(5月10日)

・ブレア首相はベン議員を開発大臣に再度任命した。ベン大臣はスピーチの中で、「巷では政治は何も変えることができないというが、DfIDの例を見てほしい。そして2005年はグレンイーグルスサミット、国連ニューヨークサミット、WTO香港閣僚会合というたくさんの機会が我々にはある」と述べた。(5月9日)

以 上